# 学校ビオトープ活動における住民参加のあり方

Community Participation in School Biotope Activity

○榎本　淳*　三宅　康成**

Jun ENOMOTO*　Yasunari MIYAKE**

## 1.　研究の背景と目的

学校ビオトープは，学校敷地内にビオトープを導入したもので，形態としては従来から存在した。この施設の維持管理活動に地域住民が継続的に関わることで，学校と地域が関わる機会を増やし，地域コミュニティの再生を促す役割が期待されている。

これまでの調査・研究では，教員や児童の意識や施設整備状況からの利活用を促す要因などが報告されているが，地域住民の意識から参加を規定する要因を明らかにしようとしたものはみられない。

本研究では，地域住民と連携しながら学校ビオトープ活動を行っている事例を対象として，地域住民の活動への参加の実態を明らかにするとともに，活動に参加していない住民が活動へ参加するための要因を把握することを目的とする。

## 2.　アンケート調査の概要

学校ビオトープ活動に地域住民を含め多くの主体が関わっている岐阜県大垣市の小学校の中で,地域住民の参加が最も活発で,幅広い層の地域住民が継続的に関わっている小野小学校を対象とした。

アンケートは，小学校区内の和合地区における地域の祭を利用し，来街者調査法によって行った。アンケート用紙は175部配布し，その場で回収した。有効回答数は163部(93.1%)である。

## 3.　学校ビオトープの利用実態

学校ビオトープ活動以外の時間に学校ビオトープを利用するか質問したところ,「利用する」が58人(41.1%)となった。利用頻度は「年に1回以上」が34人(63.0%)と最も多く,「毎日」と答えた回答者はいなかった。同伴者は「子ども・孫」が36人(51.4%),「配偶者」が12人(17.1%)となり，利用目的は「生き物の観察」が35人(53.8%)と最も高くなった(表1)。利用時間では,「30分程度」が27人(47.4%)と最も多く,次に「1時間程度」が18人(31.6%)であった。

表1　来訪時の利用目的

| 観察 | 休憩 | 語らい | 遊び | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 35(53.8%) | 7(10.8%) | 12(18.5%) | 9(13.8%) | 2(3.1%) |

利用時間・利用頻度と利用目的の関係を調べると，利用時間が短いまたは利用頻度が低い利用者ほど観察目的で訪れている割合が高くなる傾向がみられた(表2，3)。

学校ビオトープでの利用時間や利用頻度を増やすためには，生き物の観察としての利用だけでなく，長い時間に渡って学校ビオトープに滞在するような遊びの場や休憩の場，語らいの場としての利用を促す必要があると考えられる。

## 4.　参加に影響を与える要因

「学校ビオトープを知っているか」という質問に対しては，131人(81.4%)が「知っている」と回答しており,「学校ビオトープ活動に参加しているか」という質問では,51人(31.9%)が「参加したことがある」と

*岐阜大学大学院　連合農学研究科
United Graduate School of Agricultural Science,Gifu University
**兵庫県立大学　環境人間学部
School of Human Science and Environment,University of Hyogo

キーワード：ビオトープ，住民参加

表2　利用時間と利用目的との関係

| | 観察 | 休憩 | 語らい | 遊び | その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 30分程度 | 21(77.8%) | 5(18.5%) | 3(11.1%) | 3(11.1%) | 0(0.0%) |
| 1時間程度 | 9(52.9%) | 1(5.9%) | 4(23.5%) | 3(17.6%) | 2(11.8%) |

表3　利用頻度と利用目的との関係

| | 観察 | 休憩 | 語らい | 遊び | その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 年に1回 | 24(72.7%) | 2(6.1%) | 5(15.2%) | 5(15.2%) | 2(6.1%) |
| 月に1回 | 5(55.6%) | 2(22.2%) | 2(22.2%) | 2(22.2%) | 0(0.0%) |
| 週に1回 | 4(36.4%) | 1(9.1%) | 4(36.4%) | 2(18.2%) | 0(0.0%) |

答えている。クロス集計によってアンケート項目間の関連性をみると，認知では，居住年数やPTA参加の有無，参加では，居住年数，年齢，地域団体への参加との強い関係性がみられた。認知に関しては，地域や学校との関わりの深さ，参加ではそれに加えて時間的なゆとりやきっかけが必要であると考えられる。

## 5.　活動参加者と非参加者の意識

活動参加者にこれまでに参加した活動について尋ねると，「運営」が37人(80.4%)，「維持管理」が20人(43.5%)となった(表4)。

表4　参加した学校ビオトープ活動の内容

| 運営 | 維持管理 | 勉強会 | その他 |
|---|---|---|---|
| 37(58.7%) | 20(31.7%) | 4(6.3%) | 2(3.2%) |

活動参加への契機では，「PTAなどの義務」が18人(41.9%)と多いものの，「友人から誘われた」が11人(25.6%)，「興味があった」が10人(23.3%)と参加者の半数近くは単なる義務としてではなく活動に参加していることが分かる(表5)。

表5　学校ビオトープ活動への参加契機

| 義務 | 勧誘 | 興味 | その他 |
|---|---|---|---|
| 18(41.9%) | 11(25.6%) | 10(23.3%) | 4(9.3%) |

今後の参加意思では，「現在より重要な役割を担いたい」が10人(22.7%)，「現状のまま」が28人(63.6%)となり，参加者の大半は今後も活動に参加する意志があることが確認できた。活動に対する満足度は，「非常に満足」12人(26.7%)，「やや満足」13人(28.9%)で，「非常に不満」「やや不満」を合わせた2人(4.4%)と比較すると，満足している参加者が多い。

活動非参加者に活動への今後の参加意思について尋ねると，「参加したい」が55人(57.9%)となった。具体的に参加したい内容を尋ねると，「運営」が19人(36.5%)，「維持管理」が23人(44.2%)となった(表6)。「参加したくない」と回答した回答者に参加しない理由を尋ねると，「時間的な余裕がない」が24人(58.5%)と高くなった。

表6　参加を希望する活動内容

| 運営 | 維持管理 | 勉強会 | その他 |
|---|---|---|---|
| 19(36.5%) | 23(44.2%) | 8(15.4%) | 2(3.8%) |

## 6.　考察

(1)学校ビオトープの利用法の検討

学校ビオトープは，多くの地域住民に日常的に利用されているものの，目的は生物の観察，滞在時間や来訪頻度はそれほど多くないことが分かった。自由記述から，「生物の観察以外の利用目的があることが分かった」という意見も得られ，今後の学校ビオトープ利用法の検討や情報発信が必要であることが把握できた。

(2)活動への参加を促進する条件

学校ビオトープの認知や活動への参加には，地域や学校との関わりの深さや，活動に参加するゆとりやきっかけが必要であることが分かった。

また，活動参加者は活動に対しておおむね満足しており，非参加者の半数は今後の活動への参加を希望していることも分かった。今後は，非参加者が活動参加への障害と感じている時間的な問題を考慮した活動内容の創設が必要となる。

## 7.　展望

学校ビオトープは，小学校敷地内に存在するため様々な問題がある。今後は，小学校同士の連携や，学校敷地外における活動などを検討していく必要がある。しかし，それらの活動の契機として学校ビオトープ活動は重要であり，地域住民が日常的に関わることができ，愛着の持てる場としての価値を高めていくことが望ましい。